

裏路地探険

国道429号を神子畑川に沿って西に進むと、東洋といわれた神子畑選鉦場跡がある。平成16年に取り壊され、今はコンクリートの基礎部分を残すだけだが、かつては不夜城のような光景が広がっていた。静かな山あいには、これだけの設備があったとはとても驚きだ。

「明延鉦山で採掘された鉦石の選鉦場というイメージが強いですが、元々は鉦山だったんですよ」とは、案内役をお願いした山内区長を始めとする地元有志の皆さん。はつきりとした史料は残っていないが、古くは生野鉦山と同じ、平安初期頃には開山されていたといわれています。

神子畑鉦山が最も繁栄したのは、近代に入ってからのこと。生野鉦山周辺を調査した結果、明治11年、神子畑で銀鉦脈が再発見さ



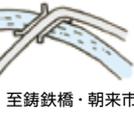
旧神子畑鉦山事務舎は明治20年に生野鉦山から移築された建物。神子畑では永く診療所として活躍した。元はフランス人技師たちの宿舎で、同建物は5つあった内の2番館である。技師団の中でコワニに次ぐ地位にあったムーセの名をとり、通称「ムーセ旧居」として資料展示、一般公開されている。(※土日のみ・10~17時/12/29~2月末は休館)



官営時代に建設されたことを示す瓦の「菊の御紋」



在りし日の選鉦場。山の斜面に造られた建物は迫力があつた。



至鑄鉄橋・朝来市街・国道312号



平成16年に解体工事が終了した「神子畑選鉦場」跡。現在はコンクリートの基礎部分とケーブルカーの軌道跡が残る。一帯は公園として整備されている。



液体中に混じる固体粒子を分離する装置「シクナー(右)」は百尺(約30メートル)の他に、55尺(約16メートル)がある。選鉦場の昇り降りを行った「ケーブルカーの軌道跡(左)」。頂上の操作室から手信号で乗降が行われた。(※ともに構内は立入禁止)

明治の近代化を支えた「神子畑鉦山」の面影
東洋と呼ばれた「選鉦場」、巨大なシクナー…
鉦山師たちが暮らした足跡がここにはある

れる。新たな鉦脈は「加盛山」と呼ばれ、生野鉦山の支山として銀の採鉱が始まった。

しかし、採鉱の不況により明治40年以降は苦境に立たされることになるが、明治42年、明延でその名を世に知らしめる「錫鉦脈」が発見されると、神子畑は新たな道を歩むことになる。明延で採鉱される鉦石を選鉦する場所として、生まれ変わることになったのだ。

「選鉦」とは、採掘した鉦石を有用鉦物と不用鉦物とに分離する作業のこと。効率よく順番に選鉦するため、山の急斜面を利用して選鉦場は建設された。22もの階層があり、その規模は幅110メートル、長さ170メートル、高低差は75メートルにも及んだ。

「東洋」と呼ばれるのは、規模の大きさから。日本有数の選鉦場が

3月下旬~4月中旬

立雲峡 桜まつり

[所]立雲峡
[問]わだやま観光案内所
TEL.079-674-2120

4/8(日) 10~16時

「わだやま竹田」お城まつり

[所]JR竹田駅周辺
[問]和田山地域振興課
TEL.079-672-6137

4/15(日) 10~15時

生野銀山へいくろう祭

[所]生野鉦山
[問]生野支所地域振興課
TEL.079-679-5801

4月下旬~5月中旬

白井大町公園 藤まつり

[所]白井大町藤公園
[問]大町公園管理組合
TEL.079-670-1636

兵庫県朝来市の春はイベントが盛り沢山!

イメージキャラクター
ちやまりん

観光情報はコチラ!

朝来市観光交流課
TEL.079-672-4003

朝来市 検索 HPリニューアルしました!



神子畑小学校跡には体育館とグラウンド跡が残る。

明延鉱山から鉱石を運んだ明神電車(一円電車)の発着駅があった。従業員の通勤や家族の通学にも利用され、駅までの険しい山道を登ったという。遠く山肌にはかすかに軌道跡を見ることができる。



一円電車や鑄鉄橋をイメージしたモニュメントが配された国道429号(鉱石の道)の橋。



選鉱場跡から東へ、国道429号沿いにある国指定重要文化財「神子畑鑄鉄橋」。生野までの鉱石運搬のため、馬車道(鉱石の道)が整備された際に架けられた。

間歩谷ダム
不用となった鉱石(尾鉱)の堆積場



ムーセ旧居前にある「サルスベリ」は県指定郷土記念物。開花時期は8～9月頃。

山神宮跡

保育所跡

ケーブルカー(インクライン)
頂上の小屋は操作室

神子畑選鉱場跡

小学校跡 ※構内は危険なため立入禁止

かつて宅があった場所

公園

いろいろハウス

旧神子畑鉱山事務舎(ムーセ旧居)

シクナー(立入禁止)

サルスベリの巨木

国道429号

鉱石の橋

協和会館や文化会館といった
娯楽施設があった

地区内にはモミの木が多い。かつて都会から移ってきた人が、クリスマスを楽しんだ名残りだそう。ハイカラな文化を伝える当時のエピソードといえる。

至穴栗市

川沿いの桜並木
川沿いには下流まで
社宅がたくさん並んでいた

●「裏路地探検」参加募集

平成24年4月21日(土) 10:00～12:00

「但馬御火浦を歩く」新温泉町三尾

*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキで申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付します。



春は神子畑沿いの桜並木が満開を迎え、写真スポットになっている。



小学校のグラウンド奥に佇む「山神宮」跡(奥)。毎年、4月には大祭が行われ、鉱山の繁栄と安全が祈願された。立派な神輿も出て、当時は大変賑わったという。現在は不動明王(手前)を祀っている。



この山里にあったとは非常に感慨深い」と、説明役の藤本さんは話す。昭和30年頃には約1300人もの人が生活していたという神子畑地区。スーパーであった購買会、映画を上映した協和会館や文化会館(卓球・柔道・ビリヤード)など、福利厚生施設も充実していた。明治33年にはいち早く私立の小学校が創立。その4年前に三菱へ経営移管され、東京の本社から社員が移り住んできたこともあり、教育には熱心だったそう。その後、公立の分校となつても生徒数は増え続け、最盛期には230人を超える小学生が在籍していた。「毎日が参観日のように賑やかでした」とは、分校の教員として勤務していた上田先生。学校がどんどん手狭になり、体育館ができるまでは毎年、入学式の場所に苦慮していたそう。

その他にも、フランス人技師の宿舎だった「旧神子畑鉱山事務舎」や日本最古の鑄鉄橋である「神子畑鑄鉄橋」など、鉱山の面影を偲ばせる建物が残る神子畑の町。春は川沿いの桜並木が満開を迎え、1年で最も美しい季節を迎えるそう。近代化の原点をたどる旅へ出かけてみてはどうだろうか。

兵庫のまんなか道の駅

但馬の玄関口、朝来の豊かな自然に包まれた“ホッとくつろげる”空間

地元農家から持ち込まれる旬の野菜や、朝来の特産品をはじめ、但馬一円のお土産が満載！レストランでは地場産の食材を使ったオリジナルメニューも豊富です。

〒679-3433 兵庫県朝来市岩津96
播但連絡道路・朝来サービスエリア内
TEL.079-670-4120 営業時間 8:40～20:00

レストランおすすめ!



但馬牛のカルピ丼
とろける甘さの但馬牛が
お手頃価格で楽しめるよ!

人気のおみやげ



朝がくる町の
チーズケーキ
ふわふわの食感と
口どけが人気!
オリジナル商品も充実



フレッシュあさご
Asago

播但連絡道路・朝来SA内!
国道312号からもアクセス可能
平成24年3月より電気自動車用急速充電器が設置されます